

ICTを効果的に活用した学習活動の充実①

GIGAスクール構想によってICT環境が整備された中で、児童生徒がこれからの時代に求められる情報活用能力を身に付けることができるよう、1人1台端末などのICT機器を効果的に活用し、学習活動の充実を図ります。

ICTを活用する学習場面は、次の3つに分けることができるとされています。

- ①「児童生徒が学級全体で一斉に行う学び」
- ②「児童生徒一人一人の学習の状況に応じた個別の学び」
- ③「児童生徒同士が教え合い学び合う協働的な学び」

今回は、①「児童生徒が学級全体で一斉に行う学び」について紹介します！

①児童生徒が学級全体で一斉に行う学び（教師による教材提示の工夫）



〈活用例〉

大型提示装置や実物投影機を活用し、教科書や学習プリント、画像・動画などを拡大して提示したり、児童生徒のタブレット端末へ提示したりします。

〈期待される効果〉

教材や資料等を視覚的に分かりやすく伝えることにより、児童生徒の興味・関心を高めるとともに、学習活動を焦点化し、学習内容の理解を深めることができます。

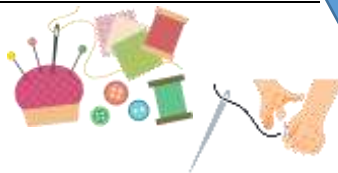
【実際の授業では…】

「理科」の授業では



タブレット端末で、メダカの産卵直後の卵と1～2日後の卵の画像を比較することで、卵の様子の違いに気付いたり、5日後の卵はどうなっているのだろうという新たな疑問をもったりすることができます。

「家庭科」の授業では



大型提示装置に映し出された、裁縫をしている教師の手元を拡大した映像を見ることで、細かな手の動きを確認しポイントを明確につかむことができます。